

「遠泳を含む集中授業が大学生の海洋リテラシーに及ぼす影響」

0814035 松岡 美美 (海洋スポーツ・健康科学研究室)

I. はじめに

遠泳は、これまでの研究においても心理的・身体的に影響を及ぼすことが報告されている。そこで、本研究においては、遠泳を含む集中授業が大学生の海洋リテラシーの獲得や向上にどのような影響を及ぼすのかを明らかにすることを目的とする。

II. 研究の方法と調査対象

本研究は、遠泳を含む集中授業の実施前と実施後において、参加者の海洋リテラシーがどのように変化するのか、海洋リテラシー調査票を用いて検証する。調査用紙は、36項目・9つの下位尺度で構成されており、36項目のそれぞれについて1「まったくあてはまらない」から6「とてもよくあてはまる」の6段階で評価してもらった。調査対象者は、海洋実習を行ったT大学1年140名、及び臨海実習を行ったK大学1年253名であり、完全記入された89名及び109名のデータを用い、実習前後の平均値・標準偏差を算出し、t検定によって差を検討した。

III. 結果

9つの下位尺度「1. 海での活動能力」、「2. 海の必要性についての理解」、「3. 海に対する感情」、「4. 海での活動経験」、「5. 船に関わる知識と技術」、「6. 海での現象と危険性について説明する力」、「7. 資源と社会背景について説明する力」、「8. 海との関係について説明する力」、「9. 環境と生態系について説明する力」のうち、T大学では、海洋実習後1, 4, 6~8の5つの下位尺度が、K大学では、臨海実習後1, 4~9の7つの下位尺度が有意に向上した。

IV. 考察

遠泳を含む集中授業後に、下位尺度4において、両実習ともに0.1%水準で有意に向上した。これは、海水浴等とは異なる遠泳やシーサバイバル、水難救助法等の活動を行い、実習実施前に比べ海における活動の経験が豊かになったと認識されたためであると考えられる。さらにK大学では、下位尺度1においても0.1%水準で有意に向上した。遠泳を含む集中授業は、実際に海で活動を行うため、特に海に触れる機会の少ない学生が、海での活動能力や活動経験といった海洋リテラシーの一部を向上させることに効果があると推測される。

V. 結論

遠泳を含む集中授業は、「4. 海での活動経験」、「1. 海での活動能力」などの海洋リテラシーの下位尺度を向上させることに有効である。

主な参考文献

椿本昇三、本間正信、野村武男、坂田勇夫、高橋伍郎、高木英樹、富樫泰一、荒木昭好(1990)「遠泳が水泳技能能力向上に及ぼす影響」『日本体育学会大会号』583.
佐野清次郎(1959)『遠泳－指導法と海の知識－』体育図書館シリーズ34, 11-21.